

# いけませしポート inとまこまい

2022.7.30

にわとりクラブ 発行

「プレいけませ夏フェスinとまこまい」は2022年7月30日、新型コロナウイルスの影響で、規模を縮小して1日のみ開催されました。参加者26家族74人を含む、約280人が集結。テーマは「深化する！！今年まずやる 待ってろ来年！」。来年、いつもどおりの規模で開催することを念頭に、試行錯誤しながら楽しんだ「プレいけませ」。参加してくれた仲間たちの笑顔とともに、レポートします。

## スタッフ集合

## 「トライすることが大事」



かつての母親の夜なべを例に、一生懸命働く姿を見せることが大事だ、と説く高橋理事長

朝8時30分。会場の北洋大学(苫小牧市錦西町)に、スタッフが集合しました。いけませ夏フェス実行委員長で、にわとりクラブの高橋義男理事長は「遊びでないから、これ」と一言。「チャレンジなんだ。いろいろトライしてみて」。皆に楽しんでもらうためには、スタッフ一人一人が自分で考え行動しながら、自らも成長することが大事。そんな思いを受け止めて、一日がスタートです。



朝の打ち合わせに臨むスタッフたち。うまくいかな、喜んでもらえるかな…。不安や緊張感と、わくわくが入り混じる時間です。



にわとりクラブのあけみさんの指示で、トラックから荷物を下ろすスタッフ。宿泊なしのため例年に比べ荷物は少ないものの、消毒液やアルコールの手拭き、手洗い石鹸などコロナ対策の積み荷がたくさん。

## サポーター準備

## 検温、消毒、マスクもしっかり

サポーターの皆さんが次々と到着。黄緑色のTシャツに着替え、係別オリエンテーションを行いました。検温や手指消毒もしっかりと。



## 周りに目配りを…！

サポーター約100人が体育館に集まりました。高橋理事長は「キョロキョロ見て、よく目配りしてください」と挨拶。開催地呼びかけ人の森谷和世さんと、川端優子さんが、苫小牧で障がい児・者を支える活動を続ける「希勇心7H」を紹介してくれました。

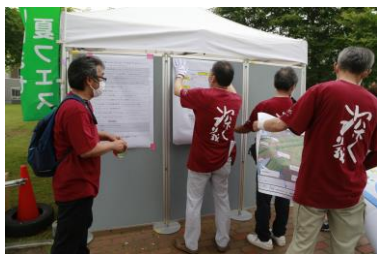


希勇心7Hの活動を紹介するパネルと、説明する川端さん(左)、森谷さん。

隣には、1997年にスタートした、にわとりクラブの歴史を伝えるパネルが展示されました。にわとりクラブの加藤久実子さんが「いけまぜで育てきた子供達のことも書いています」と紹介しました。



## 参加者が次々到着



## ポイントラリー 準備も大詰め

参加者たちが続々とやってきました。息子のゆうり君(8)が1歳の時から参加しているという、なかささなえさんは「せっかくの地元開催なのに1泊2日でなくなってしまって…」と少し残念そう。でも「ポイントラリーのうちわ作りが楽しみ」と、にこやかに会場に入っていました。ポイントラリーの準備も整ってきました。

## オープニング

## 大きな声で「エイ、オー！」



迫力満点の「進け！」の演奏(上)と、声を合わせる参加者ら(下)



体育館にみんな集まり、いよいよオープニングです。バンドの演奏に合わせて大きな声で歌った「進け(いけ)」。拳を突き上げながら「エイ、オー！」と歌うと、いけまぜがいよいよ始まるぞ、という気持ちが盛り上がります。ラジオ体操で体を動かしたら、準備OKです。



1



2



3

1. 「プレだけれど、本番さながらにやっていきたい」と挨拶する開催地実行委員会の渡邊敏明実行委員長。
2. 「本当に多くの方が汗を流して今日の日を迎えている。そのことを心にしっかり刻んで楽しんでほしい」と挨拶する岩倉博文・苫小牧市長。
3. 昨年に続き会場を提供してくださった北洋大学の奥村訓代学長。

# ラジオ体操 準備はばっちり

これから始まる一日を楽しむために、皆でラジオ体操の時間です。北海道ラジオ体操連盟理事の岸本好且さんがお手本を見せてくれました。



駒澤大学附属苫小牧高校のボランティア部の生徒と一緒に元気よくラジオ体操に取り組んでくれました。さすが高校生、動きが軽やかです。

ラジオ体操で体を動かす参加者、サポーター



## 集合写真

高所作業車から撮影した集合写真。例年より人数は少ないですが、みんな元気にポーズを決めてくれました！とまチョップも暑い中駆け付けてくれて、ありがとう。



「深く」に込めた思い

Ｔシャツの背中のプリントは、高橋理事長自ら揮毫した「深く」。「人間は短い期間でも深いつながりが生まれる。お母さんのことを考えてもらえれば分かります」と説明しました。当日のパンフレットにも「短かったが深かった」と、亡き友・河嶋氏との「真の付き合い」について記しています。



# ポイントラリー

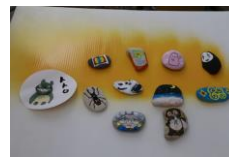
# 多彩なメニューにうきうき

ストラックアウトや太鼓、消防車&救急車、DJ、書道、ストーンアート、シャボン玉、太鼓、手形絵、バルーンアート、ポッチャ、紙芝居、Cwalk、うちわ作り、高所作業車の体験を楽しみました。ストラックアウトでは、狙った数字に命中すると、本人も家族も「やった！」と大喜び。太鼓の体験では、大きな音に驚きながらもリズムと音色を楽しんでいました。



家族で仲良く、思い思いのプログラムを楽しむ参加者の皆さん。たくさんの笑顔に出会えて、サポーター、実行委員会のメンバーにとっても、かけがえのない時間になりました。





(右)口腔ケアに参加してくれたかほちゃん、ありがとう。

## 高橋先生 & ヒーローと記念にパシャ



撮影スポットで撮ったポラロイド写真は、その場で参加者さんにプレゼントしました



## 夕ごはん

いけませの夕食といえば、カレーですね。今年、チキンカレー。2本の手羽元が乗ったスパイシーな一皿でした。子供達にとっては、少しだけ大人の味…だったかな？



## アトラクション

### 胸躍る音楽 心の栄養に

夕食でお腹がいっぱいになったら、アトラクションの時間です。苫小牧の和太鼓グループ「樽前ばやし」の皆さんが力強い演奏を披露。苫小牧東高校の書道部が加わり、ライブパフォーマンスで魅了しました。



Kiroroの「Best Friend」などのピアノ演奏を披露したにわとりクラブの加藤剛さん。昨年、学生服姿で披露した「エール」に続き、今年も大活躍でした。



演奏と書道のパフォーマンスが終わると、外に移動。札幌のスケーター4人によるダイナミックなパフォーマンスを楽しみました。見事ジャンプが成功すると、歓声が起こりました。音楽で盛り上げてくれたDJの皆さんも、ありがとうございました。



最後はお待ちかね、打ち上げ花火です。夜空に咲いた大輪に、大歓声があがりました。皆で見上げて、心を一つに楽しみました。



いけませ小僧に点火し、フィナーレが始まりました。色とりどりに輝く打ち上げ花火もしっかりと目に焼き付けました。鳴海さん、いつもありがとうございます。



フィナーレ終盤、拡声器を手に「みんな友達」を歌う高橋理事長(右端)。

にわとりクラブの米澤副理事長より、開催地代表、サポーター代表、参加者代表にそれぞれ修了証書が手渡されました。来年もまた、苦小牧でお会いしましょう！

フィナーレの締めくくりに副実行委員長の岩倉早苗さんからご挨拶いただきました。「高橋先生のおひざ元の苦小牧で、たくさんの笑顔に会いたい、その一点で、コロナで倒れそうな気持ちを奮い立たせて本日に至りました」と長い準備期間を振り返りつつ、参加できなかった仲間たちに向け「来年こそお会いしましょう」と呼びかけました。



YouTube配信を見てくださった皆さんも、ありがとうございました！

## 編集後記

コロナ感染第7波の中、行われた「いけませ夏フェス プレ大会」でした。その中でも、参加者・スタッフの皆さんは快く取材に応じていただき本当にありがとうございました。皆さんの笑顔を記録できて、大変有意義な取材と編集作業でした！(K)

YouTube生配信の担当と兼務をしており取材をすることができなかったのも、来年もかわら版の担当であれば、できたらいいなと思いました。(A)

3人で撮った写真は数千枚にも、掲載する写真を選ぶのは一苦労でしたが、皆さんの笑顔を見ながらの作業は楽しかったです(H)